一般質問

3月定例会

門 眞一郎 議員

Q 定住者と集落どうつなぐ

本町では、以前から定住対策に取り組み、独自の仕組み作りを行っているが、人口減少を止めることが困難な状況だ。また、Iターン者の定着率が低いことも悩みだ。

定住には、集落とU・Iターン者をどうつないでいくかが重要だが、定住対策の考え方はどうか。

住民が、ここはとても素晴らしい所だと愛着を持って暮らすことが大切だ。愛着や誇りを醸成する施策を推進すべきだ。

CATV飯南局

A 対策の拡充で対応する

町長 山碕 英樹

(1)飯南高校報道部とCATV飯南局が協力し、PRビデオを作成し、全国へ配信すれば、行ってみたいという人が現れる。

(2)定住者支援策が一目でわかるパンフレットを作成する。

(3)U・Iターン者が互いに協力し合える仲間作りで、定着の助けにする。

以上、3件を提案する。

定住対策は基本姿勢として、一つひとつの相談に丁寧に対応する体制づくりが大切だ。

定住相談員の活動状況は、昼夜を問わず、U・Iターン者の相談に乗っているが、集落とつなぐ役割として定住協力員5名を配置し、情報収集に努める。

新年度から、集落がUターンを促すことで奨励金を交付したい。また、定住促進賃貸住宅を集落へ建設するため、用地確保に協力いただきたい。

こうした取り組みを通じて、U・Iターン者が集落に溶け込み、活力あるコミュニティーが形成されることを期待している。

3つの提案は実施に努める。

様々なPR媒体

Q ふるさと納税をさらに拡大せよ

ふるさと納税拡大には、都市住民に支持されるまちづくりやPRが必要になってくる。

また、お礼の品に対する魅力が拡大への一因となっている側面もある。

お礼の品には、安定した価格で特産品が消費されるという意味があるが、どう対策するか。

A PRで波及効果を狙う

町長 山碕 英樹

様々な媒体を通じてPRに努めているが、本年度は1億円を達成し、前年度の1・4倍となった。

お礼の品対策は、この制度を好機として捉え、本町の特産品で飯南町をPRし、地域経済への波及効果や活性化に結びつけることが大切と考えている。

新商品発掘やリピーター獲得対策を強化して行く。

一般質問

3月定例会

熊谷 兼樹 議員

Q 良質な敷料用オガコ生産を

敷料用オガコの利用率が低い。畜産農家が求めるものを生産し、利用を促進するには原材料を保管する施設を建設し、含水率を下げることが必要ではないか。

A 敷地の拡張から

町長 山碕 英樹

敷料用オガコの含水率が高い点は、森林組合と問題意識を共有し協議している。

敷地の拡張から具体的な検討を進めたい。

飯南町バイオマスセンター

Q 未利用材買取制度の改善を

未利用材買取制度について、里山商品券を利用するため発券が迅速にできない。

搬入時期によっては、その利用期間が短くなる。

搬入木の雑木比率が高く、それによる支障が出るなどの問題があるのではないか。

A 関係者で協議

産業振興課総括監 藤原 裕

発行している里山商品券は、法律により有効期限を6ヵ月以内とされている。そのための支障が出ているので、関係者と協議したい。

また、樹種による搬入制限は無く、支障があるとは思っていないが、指摘の点は調査したい。

Q 未利用材搬出に支援を

循環型農林業の安定的な推進には、町民の参画が必要だ。そのため、木材が比較的容易に伐採搬出できる里山整備活動を支援してはどうか。

町独自だけでなく、林野庁が実施する交付金の活用を提案したいが、考えを問う。

A 事業主体と協議し推進

町長 山碕 英樹

林業振興による森林整備・里山環境保全は重要で、それは鳥獣被害防止にも繋がる。支援は必要になると思うが、個人への支援制度は考えていない。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金については、本町の里山整備に活用できるよう努力したい。

Q 介護職・障がい者支援員の処遇改善を

介護職、障がい者支援員は、就労環境の厳しさや処遇の低さから倦厭される職業になっている。

現在、周辺自治体では介護職員確保対策を行っている。本町でも人材の確保を図るべきではないか。

A 人員不足は切実

町長 山碕 英樹

本町では種々の助成金、支度金制度を設けているが、介護職員・障がい者支援員の人員不足は切実だ。

賃金は、国を挙げての問題であり、国・県で検討頂きたいが、本町としてできることは関係機関と協議して努力したい。